

日本共産党熊本市議団の山部洋史です。

市営住宅の改修・維持管理の予算の拡充について質問いたします。

共産党市議団では定期的に市営住宅のアンケートを行い、寄せられた声をもとに住民の皆さんと市へ要請を行っています。

寄せられた要望については、団地ごとにまとめ、昨年12月に行った要請行動の時にお渡しをいたしました。大西市長はごらんいただけましたでしょうか。

低廉な家賃で入居できる市営住宅は、市民生活の基盤を支え、福祉的な意味からも大変重要な役割を果たしております。

同時に、ただ住めればよいというものではなくて、より快適で住みやすい住環境整備が求められています。

まず、寄せられた声の一部を御紹介します。

- ・昭和34年ごろに建てられた団地で60年ぐらいたっているので建て替えてほしい。
  - ・畳替えをしないと31年になるのでボロボロです。
  - ・浴室の窓が壊れて2年もたつ。閉まらないのでとても心配。
  - ・浴室のドア、引っ越してすぐ腐れ応急処置したが外した。
  - ・台所の流し台は古くて床はボロボロ
  - ・北側の板の間床が腐ってブヨブヨ
  - ・住民の高齢化が進み、草刈りなどができず、草ぼうぼうの状態が長いいため近隣の方が不愉快な思いをされているのではと、心苦しい。
  - ・バスタブが高いため、自分で入ることができず、男性ヘルパーが来た時にしか入浴できない。
  - ・階段の天井部分がはがれて危ない。予算がないでは済まされない。
- など、こうした要望が市内各地の住宅から寄せられました。

不安定雇用や経済格差、年金の削減、負担の限界を超えた高すぎる国保料など市民の皆さんが厳しい生活を強いられている中、安い家賃で入居できる市営住宅は、本来であればとても大事な役割を果たすものです。一方で、著しい老朽化と進まない修繕に、健康で文化的な生活を営むに足りているのかが今問われています。

そこで、お尋ねします。

更新周期を過ぎ、積み残しているものが平成 30 年度の時点で畳の取りかえについては更新周期 30 年のものを 665 戸残し、風呂釜の取りかえについては 10 年周期で 823 戸も残されております。給湯器も 15 年周期が 1071 戸残され、計画修繕の積み残しは、年々増え続けています。

4 年前に私が一般質問で取り上げた平成 26 年度の積み残しデータと比較しますと、畳の取替が 4 年前は 330 戸でしたから 335 戸の増と倍増しています。風呂釜の取り換えは 470 戸で 353 戸の増で約 2 倍。給湯器にいたっては、280 戸で 791 戸増の約 3 倍もの積み残しが増えています。

その一方で、計画修繕の予算の年次推移は、ここ数年横ばいです。このテンポでは、どれだけ修繕を進めても毎年さらに新しい計画修繕の住宅が出てくるサイクルになり、積み残しの件数はふえ続ける一方です。

(1) 計画修繕の積み残しを一日も早く解消し、新たに更新周期を迎える住宅に対応し、順次取り組む必要があると考えます。

いつまでに、この積み残しを解消するおつもりなのか、具体的な期限をお示ください。もし、期限が決まっていないのならば、市として期限を決め、修繕計画を策定し、積み残しの解消を図るべきだと考えますが、いかがでしょうか。

都市建設局長にお尋ねします。

(答弁)

(返し)

「計画修繕については目標の周期から、遅れているものも、ある」とのご認識でしたが、わずか 4 年間で倍増どころか 3 倍にまで積み残しが増えています。そして、いずれの修繕も住民の皆さんにとっては、まさに日々の生活に関わることです。劣悪な環境での生活を強いられる状況は大変問題です。

積み残しの解消の目標期限については言及がありませんでしたが、一刻も早い適切な住環境の整備が必要です。そのことを強く求めて次の質問に移ります。

これまで住民の皆さんとくり返し、何度も住環境の改善を要望してきました。しかし、そのたびごとに「予算がないから」との回答で住民の皆さんは要望を退けられてきました。

昨年 12 月の住民との要請行動はこの予算決算委員会室で行われたのですが、参加されたお一人がこう訴えました。「市役所を建て替えるという話が出ていると聞いていますが、こ

んなに立派でフカフカの絨毯が敷き詰められた会議室のある、きれいな市役所をどうして建て替えるのですか？ そんなお金があったら古い団地の修繕こそやってほしい」

まさにそうだと思います。「予算がない」のではなくて「予算の優先順位」がおかしいのです。

以前、質問しましたが、北区・新地団地敷地内の立ち枯れした雑草の除草については、経費が 600 万円かかるからできないとの回答でした。聞けば、市内 1 万 3000 戸を超える市営住宅の樹木棟の管理費が年間たった 2000 万円しかないということでした。そのいっぽうで、今定例会に提案されている「熊本城ホールのこけら落とし」には 1 億円以上もの予算が使われます。

入居者にとって便利で快適なものとなるように整備しなければならないと規定された本市市営住宅条例からしても、また市長が標榜する「誰もがあこがれる上質な生活都市」という点からも、市営住宅の老朽化を放置している状況は一日も早く改善し、せめて人間らしい生活が送れるよう、最優先で取り組むべきだと考えます。

(2) しかし現行水準の予算では、積み残しの戸数が減るところか、倍増しています。計画修繕の予算の増額なしには減らすことはできません。また団地の維持管理費も同様に予算を例年ベースより抜本的に引き上げることが必要だと考えますけれども、大西市長にお尋ねをいたします。

(答弁)

(返し)

市営住宅 127 団地分の樹木等の管理予算が 2,000 万円。一団地あたりでは 15 万 7,500 円の予算です。ところが例にあげた新地団地だけでも 600 万円の経費が必要です。

現状の予算のレベルでは、修繕の積み残しの解消も含め、住宅の維持管理もできていない状況ですので、予算の増額をと、具体的な答弁を求めたわけですがそれでも全くお答えがありませんでした。この点については、抜本的な予算の増額を強く求めます。

住民の皆さんが繰り返し要望しても、こうした予算が抜本的に増額されない。その一方で今定例会では、住民が直接活用できない桜町再開発・熊本城ホールや MICE の誘致には 108 億円もの予算が提案されています。

このような市民生活への予算のありかたについて、市営住宅の問題のみならず、子育て世代の他自治体への流出問題や全国自治体の「住みよさランキング」で熊本市が 506 位である現状に、「上質な生活都市」とは一体何なのか、市長ご自身、改めて問い直される必要があると思います。そのことを指摘しまして、私の質疑を終わります。